

りんせん通信

5
2024

発行：アロマセラピールーム林泉 <http://rinsen-aroma.com>

2024年5月7日発行(通巻第157号)

～香りの植物見学記(18)～

保谷町ローズガーデンを訪ね、 春バラの香りを体験しました。



住宅街にある85坪のバラ園

保谷町ローズガーデンは、2016年に開園した、西東京市のバラ園です。西武池袋線・ひばりが丘駅から、バスに乗り10分ほどのところにあります。

入口のアーチを抜けると、家二件分ほどの敷地に、156品種がきれいに植えられていました。

近くでじっくり観察できます

本当に小さなバラ園ですが、このサイズが活かされていると思いました。わたしが気に入ったのは、バラとの距離が近いこと。大きな植物園だとバラが遠くて、香りを確かめられないこともあります。ところが、こちらでは、どの花にも顔を寄せることができました。



お目当てはオールドローズ

1番楽しみだったのは、オールドローズの花壇。バラは原種に近いほうがよく香り、精油の材料になるのもオールドローズです。精油だと華やかさが際立ちますが、自然の香りは印象が違いました。ときおり吹く風に乗って、さわやかに鼻先を通り過ぎていきます。

オスカルが咲いていました

こちらには、姿の美しいバラもたくさん植えられています。写真は、「オスカル・フランソワ」という品種。剣弁高芯咲の形と純白の花色が相まって、名前の通りの気高さを感じます。2003年のローマ国際コンクールでは、金賞とともに芳香賞も受賞したそうです。



アロマセラピーはこれから

赤いつぼみは、「アロマセラピー」という名前の品種。この日は、まだ香りが感じられませんでした。

保谷町ローズガーデンの最盛期は5月中頃ですが、6月中なら十分に楽しめるそう。「アロマセラピー」の香りを体験しに、また訪ねてみようと思いました。

おすすめアロマグッズ No.125



パピエ・ダルメニイ～ローズ (パピエ・ダルメニイ)

バラの香りの紙製のお香です。バニラのような濃厚な香りをベースに、フローラルな雰囲気がアクセントになっています。

説明書を読むと、「イランとトルコの2種のローズにフルーティーさが加わったメロウな香り」とありますが、わたしは、子どもの頃買ってもらった香り付き折り紙を思い出しました。天然の香りではありませんが、懐かしさのせいか心が和み、これもまたいいなあと思います。

林泉サイトもご覧ください



『りんせん通信』バックナンバーほか、サロンのお得な情報を掲載しています。

編集後記

今号でご紹介した保谷町ローズガーデンからの帰り道。最寄りのひばりが丘駅に近づくと、どこからかいい香りがします。キョロキョロすると、ジャスミンが咲いていました。道路の生垣になっていて、白い小花が満開です。

顔を寄せると、甘さと爽やかさを併せ持つ独特の香りがします。これは、ジャスミン・サンバックというジャスミン茶に使われる品種でしょう。

ジャスミンの生垣は、南口の西友のすぐ脇にあります。花期は7～9月ですから、お出かけの際はぜひ寄ってみてください。